



自治会と協働した活動に向けて

(南台区ふれあい協力員サークル
リーダー 道口 典子)

高齢化の進む団地での見守り活動は、自治会との協力がなくては広がらないと感じていましたが、昨年の震災を受けその思いを強くしました。その前提になるのは普段のコミュニケーションです。

3月に災害や高齢化に対応できるような新しい集会所ができたこともあり、この集会所を世代を超えて住民が集うコミュニケーションづくりの拠点にしたいと考えました。そこで、毎月第2金曜日に集会所における居場所づくりの活動をスタートしました。フリードリンクコーナーやちょっとした遊びの準備はしますが、あくまでも参加者主体の活動を試みています。また、6月には初の試みとして、自治会の福祉専門委員会と共催で世代間交流カレーパーティーを開催しました。自治会と役割分担することにより、地域福祉に対する協力関係がより強くなったように思います。12月にはトン汁パーティーを予定しています。初めての試みばかりですが、「ゆっくりと人の輪が広がっていったらいいなあ」と考えています。



▲カレーパーティー
ビンゴで盛り上がり

サロン活動

ふれあいいいききサロン「酔芙蓉の会」

(代表 鈴木 ふき子)

夏休みに入って間もなくの昼下がり、舟石川中丸集会所では「酔芙蓉の会」の会員と、近くに住む若いお母さんとその子どもたち、総勢33人が集い、ポテトの薄焼き・フルーツヨーグルトのおやつ作りで熱気むんむんでした。

元気いっぱい子どもたちのために事前に図書館から借りてきた紙芝居と絵本を“おばあさま”たちに読んでもらいました。不思議なことにあんなに賑やかだった子どもたちが興味津々に見入って大喜び。台所ではお母さんたちが会員の指導でおやつ作りに大奮闘。こんな光景を目の当たりにするとひと昔前の家族関係の一コマを見ているようでほほ笑ましく感じました。

お茶のみ会としてスタートし、10年目に入りました。時々若い世代にも呼びかけ、少しずつでも地域の活性化に繋がることを願いながら、楽しく集えるサロンを続けたいと思います。



▲はいポーズ!

ふれあいいいききサロン「中丸春秋会」

(代表 酒寄 芳治)

「マージャンは脳と心のビタミン剤」をスローガンに、毎月2回(第1、第3木曜日)に舟石川中丸集会所での定例会を始めとして、春・秋のグランドチャンピオン大会・研修会(村外活動)・他サロンとの交流会など幅広く活動しています。

最近、村社協の善意銀行への寄付などにも取り組み、金券・テレカなどを寄付し感謝されています。今年度からは、総合福祉センター「絆」のアダプトにも参加し、除草作業を実施するとともに、一汗かいた後に集会所で昼食懇談会を実施しています。

「中丸春秋会」は、健康マージャンはもとより地域のふれあいをもっともっと深めていければと思っています。地域の皆さんの見学をお待ちしています。



▲チームワークで除草作業

ごあいさつ (中丸地区社協会長 笠原 武士)

厳しい残暑が続く中で、朝夕の風に秋の気配を感じるころとなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。日頃より、本会事業の推進につきまして、ご理解・ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

さて、本地区社協活動も6年目に入っていますが、本年度は、自治会をはじめとする地域の皆さんと話し合いをしながら、それぞれの地域にあった無理のない活動に向けた新たなスタートを切った年度と言えるのではないのでしょうか。また新たな動きとして、子育て中のお母さんたちが気軽に集える「母と子のサロン」の立ち上げなど若い世代を対象とした新規事業も計画されており、世代を超えた地区社協活動の芽吹きが感じられます。

善良な市民をだます“おれおれ詐欺”など「自分さえ良ければ」という風潮が広がっているように見受けられます。地区社協活動を始めとするふれあい活動が、困ったときは手を差し伸べられる雰囲気づくりに繋がり、このような詐欺被害や孤立死などの防止に繋がっていくことを信じて活動していきたいと考えていますので、皆さまの地区社協活動への参加ならびにご指導・ご鞭撻よろしくお願い致します。



平成24年度中丸地区社協総会開かれる

4月21日、中丸地区社協総会が中丸コミセンにおいて開催されました。

当日は、村社協の澤畑常務理事・根本中丸地区自治会長の他、各区自治会長・地区自治会正副部会長の来賓いただくなど、50人近くの参加がありました。

冒頭笠原会長からの「無理のない活動にむけて次なる一歩を踏み出したい」との挨拶とともに来賓挨拶をいただいた後、緑ヶ丘区の大串氏が議長として指名され審議に入りました。審議では、前年度の事業報告・決算報告や本年度の事業案や予算案などの他、会計の選任方法についての会則改訂提案などについて、活発な質疑応答のもとに全会一致で承認され無事終了しました。



中丸地区社協について、ご意見・ご要望がありましたら、中丸コミュニティセンター内事務局までご連絡ください。

中丸地区社協では、福祉活動に関心のある方、ボランティア活動をやってみたいと考えておられる方の参加をお待ちしております。お気軽にご参加ください。

中丸地区社協事務局
中丸コミュニティセンター内
担当 田名部
電話・FAX 287-3158

総務・研修グループ活動紹介

(総務グループ長 叶井 実)

総務・研修グループは、多彩な団体から集まった男性8名・女性4名で構成しており、主な役割は、予算・事業計画策定、会計、研修企画など縁の下の力持ち的存在です。

6/18には、昨年度に引き続き地区社協活動への幅広い理解やサポーター養成をねらいとして、「新任者研修会」実施しました。これまでは、運営委員だけを対象としていましたが、今年度はより多くの方に地域福祉活動の重要性について知ってほしいと考え、新任ふれあい協力員も対象としました。

年度後半には、中丸地区全体での外部研修会や“地域福祉活動を考える会”を予定しており、これらの企画を通して“一緒に中丸地区の福祉のあり方”について考えていければと考えています。



▲新任者研修会

見守り活動について思うこと

(支えあいグループ長 相沢 清子)

“中丸地区の福祉を考えるプロジェクト”などで「中丸地区社協における見守り活動のあり方」について話し合いをしてきた結果、中丸地区の場合は、区(単位自治会)ごとに特性や事情が異なるため、「見守りは各区のやり方で進めていく」という方針が打ち出されています。

各区における見守りの場合、民生委員や各区ふれあい協力員サークルのみでは、限界があります。全体を網羅するには何と言っても自治会の常会を中心とした“向こう三軒両隣”が中心になり、その中に民生委員・児童委員、福祉専門委員、ふれあい協力員が参加していくという形が望ましいのではないかと思います。

ふれあい協力員サークルは、集会所を開放しての居場所づくりや世代間交流会・ミニ敬老会などを行っています。これらの活動自体が見守り活動とすれば、常会の見守り活動と連携しながら、各区の見守り活動のあるべき姿を話し合うとともに、その結果を地区全体で共有するために意見交換をしていくことが重要だと考えています。



「地域で楽しく子育て」支援に向けて

サロンを立ち上げ (ふれあいグループ長 篠崎 信一)

ふれあいグループは、今年度も昨年度に引き続き「ベビーマッサージ体験教室」「英語ベビーサイン教室」を実施していく予定です。また、新しい試みとして、「地域で楽しく子育て」支援に向けて赤ちゃんママのサロン(愛称:赤ちゃんママのキラキラサロン)を立ち上げていく予定であり、中丸地区の母子保健推進員と一緒に何回かの話し合いを重ねています。

どちらかと言うと高齢者福祉に目が行きがちですが、ふれあいグループは子育て支援を始めとする児童福祉や障害者福祉を通じた地域づくりにも力を注いでいきたいと考えています。



▲サロン立ち上げに向けて熱心な話し合い

三世代交流会を開催

(押延区ふれあい協力員サークル
リーダー 本多 千枝)

6月23日、中丸コミセンにおいて100人余りの住民の参加を得て三世代交流会を開催しました。レクリエーションは、子供会役員とサークル員で役割分担し、ボールゲームやカルタ取りの他、七夕飾り・ビンゴゲームなどを用意しました。

七夕飾りでは、折り紙で作った人形などの飾りとともに願い事を書いた短冊を笹につけるなどみんなで力を合わせて見事に完成させ、七夕飾りを背景に高齢者全員の記念写真を撮りました。カルタ取りゲームでは、子どもたち・高齢者が一緒になった3つのグループを作り、ホールいっぱい並べられたカルタを囲むように座り、サークル員の読み上げる言葉を聞き漏らすまいと集中するなど、真剣な表情で挑戦していました。今回の行事を通して、世代を超えて楽しみながら時間を共有することの意義を再認識できたことは大きな成果でした。

その他の事業としては、4月から新たに月1回「おしのベサロン」を開催しています。午前中にゲームなどで気持ちよく体を動かした後、各自持参したおにぎりや差し入れの漬物を食べながらの会話は楽しいひとときになっています。今後も無理なくできる活動を考えながら地域の福祉活動を継続していきたいと考えています。



▲七夕飾り 見事に完成

ふれあい協力員サークルの活動について

(須和間区ふれあい協力員サークル
リーダー 松本 典子)

当サークルは、他の地区と異なり、サークル員が1年又は2年(常会により若干差があります)で交代をするという形で活動をしています。そのため、サークル活動のノウハウ継承という課題はありますが、行事の際にはサークル員が一致協力して課題解決に当たりながら、なんとか楽しく活動ができていると思います。

主な行事は、ミニ敬老会・高齢者へのお弁当作り・お祭りのお手伝いなどで、回数的には他の区に比べると少ないのですが、サークル活動の時間を共有することにより、若い世代の協力員も増えてきており、世代間交流や地域とのふれあいにおいて大きな力になっていくことを信じて活動を継続していきたいと考えています。



▲高齢者へのお弁当作り中

楽しく食事会を開催中

(舟石川中丸区ふれあい協力員サークル
リーダー 相沢 清子)

男性3人を含む総勢27人のサークルメンバーが、月1回の舟石川中丸集会所での食事会の他に、世代間交流会や研修会を実施しています。主な活動である食事会は、3班に分けているため各メンバーの参加が3カ月に1回になるなど、無理をせずに継続的に活動できる工夫を重ね軌道に乗ってきています。食事会準備スペースや道具の都合で、「NPO法人楽々茶の間」の食事作りに参加していますが、毎回、おいしい料理に工夫を凝らしています。食事会は、調理スタッフ・運営スタッフ・利用者を含めて20人程度の参加者で、午前中は「いきいきヘルス体操」をしたり、みんなで季節の歌を歌ったり、会員さんとおしゃべりを楽しんだりしています。

その他の行事としては、ふれあい協力員研修会などですが、研修会後の親睦を兼ねた食事会などでコミュニケーションを図りながら楽しく活動しています。



▲おいしい食事を準備中